

○まえがき

- ・本索引は、「将棋月報」の主要記事を一覧にしたものである。
- ・本索引は、湯村光造氏が蔵書を国会図書館に寄贈されるに際し、閲覧の便のため企図されたものである。
- ・したがって、湯村氏が所有していない号については、本索引に記載がない。国会図書館利用の目的とはずれれるが、記事索引として完全なものにするために今後機会があれば補足してゆく。
- ・発行状況・通巻番号および湯村氏の不所有号などについては、「詰棋めいと」第23号に一覧表が掲載されているが、一部改訂して再録する。

	T12	T13	T14	T15	S 2	S 3	S 4	S 5	S 6	S 7	S 8	S 9	S10	S11	S12	S13	S14	S15	S16	S17	S18	S19
1月		D90×	4	21	36 37:	50	63	75	87	102	114	129	141	154	167	179	190	205	216*	228*	240	252
2月		D91×	5 6:	22	38	51 52×	64	76	88	103	115	130	142	155	168	180	191	206	217*	229*	241	253
3月		D92	7	23	39	53	65	77	89 90:	104	116: 117	131	143	156:	169	181	192	207	218	230*	231×	242
4月		D93	8	24	40:	54	66	78	91× 92	105	118: *	132	144	157	170	182×	休刊	208×	219: *	232	243	
5月		D94	9	25	41	55	67	79	93	106	119 120:	133	145	158	171	183	193	209*	220	232	244	
6月		D95	10 11:	26	42	56	68	80	94	107	121	134	146	159	172	184	194× 195	210	221*	233	245	
7月		D96	12 13: 14:	27	43	57	69	81	95	108	122 123×	135	147	160	173	185	196	210	222	234	246	
8月		D97	15	28	44× 45	58	70	82	96	109	124	136	148 149×	161	174	186	197	211	223*	235	247	
9月		D98	16	29: 30	46	59	71	83	97	110	125	137	150	162× 163	175	187	198	212×	224*	236	248	
10月		1	17	31: 32	47×	60	72	84	98	111	126	138:	151×	164	176	休刊	199 200×	213	225*	237	249	
11月	D86×	2	18	33: 34	48	61	73	85	99 100×	112	127	139	152	165	177:	188	201× 202*	214*	226*	238	250	
12月	D88×	3	19 20:	35:	49	62	74	86	101	113	128	140	153	166	178	189	203* 204×	215	227*	239	251	

D は「道楽世界」の通巻番号。（誌名は「将棋月報」）

: は臨時発行。

× は湯村氏不所有。中には休刊または単なる欠番の可能性もある。また、実際に発行されていて臨時発行の場合、記入した月が前後1か月ずれている可能性がある。

\* は湯村氏不所有、コピーあり。

1, 2と付された号はないが、T13. 12月号に3とあることから、D99, D101(100の誤りか)を読み替えた。  
 7には6と付されているが、単なる誤植とみて読み替えた。6は番号重複で、臨時発行の7を湯村氏が所有していない可能性もなくはない。  
 20:は異なる版で2回発行されている。  
 210は番号が重複して発行されている。  
 232(S17. 5の方), 233には222, 223と付されているが、単なる誤植とみて読み替えた。232は番号が重複していることになる。

- ・臨時発行というのは、何らかの事情で本誌を発行できないとき、1枚ないし2枚で発行されたものである。定期発行と通算して番号を付けてある。内容は詰棋出題(ほとんどの場合、次の定期発行に再掲されている)・誤植不詰通知・広告・雑報などで、詰棋出題の一部を除いて本索引で対象とする記事はない。  
 35, 40, 118, 138, 177, 219は臨時発行と印刷されていないが、1～2枚で実質的には臨時発行と同じなので、上表では臨時発行とした。  
 45は臨時発行と印刷されているが、紙数内容が定期発行例並みなので、上表では臨時発行としなかった。

#### ○収録方針

- ・収録方針および構成については、湯村氏および本索引の発案者である森田銀杏氏に助言をいただいだ。
- ・指将棋関連の記事は省略することがある。
- ・記事とは違うが書誌的要素として、表紙と常設コーナーを記す。常設コーナーは明確に定義しがたいが、一応「編集部の企画による各号定例の欄」とする。
- ・原本・コピーとも所有していない号についても、続く号の連載回数・結果発表などから明らかに類推できる記事は記す。それもなく、記事が1項目もない場合は、備考欄に「なし」と記す。
- ・なお、湯村氏蔵の「将棋月報」所載の詰将棋作品は、門脇芳雄氏の手で詰将棋データベースに入力されているので、具体的内容はそちらを参照されたい。連載古図式は対象としていなく、単発発表の作品には一部未入力のものがあるが、常設コーナーの懸賞出題を中心に、大道棋や巻末作品集はほぼ網羅されている。

#### ○表記

- ・連載記事と常設コーナーは初回の掲載号に記し、備考欄に最終回を示す。  
 最終回に続いて( )内に連載の回数を記す。多少の誤差があるかと思われるが、記事の長さの目安とされたい。
- ・連載ものでも、特記すべき内容がある場合は掲載号に個々に記す。
- ・記事の分類の基準には内容(作品・作家・・・)と形式(随想・論評・・・)が考えられるが、原則として内容に従い、一部形式による。  
 分類は本来排反的定義に基づくものであるが、本稿の分類は厳密でなく、キーワードに近い。
- ・湯村氏が「詰棋めいと」の連載「『将棋月報』で迎える戦前の詰棋界」で取り上げた記事は、備考欄の前に「詰棋めいと」の掲載号数を記す。
- ・古図式集について、タイトルに書名が含まれていない場合は、備考欄に俗称で記す。
- ・異体字・仮名遣いは原文のまま表記し、旧漢字はJ I S第2水準の範囲に限って残してそれ以外は新字を使う。

「詰棋めいと」掲載号数

年月	号	筆者	タイトル	分類	備考
【T13】 1924. 3	D 92	耕男愚人	名人關根金次郎師経歴談	棋士	23 本号が第3回、～104号(100回)
1924. 4	D 93	編集部 編集部	有段者 懸賞詰将棋	指将棋 作品	23 関根名人が免許状を授与した有段者の名簿、アマプロ交りで随時掲載 常設コーナー ～253最終号 新作のほか「無双」D91以前～30号(50回)、松崎神社作品D91以前?～D94号
1924. 5	D 94	木見金治郎 編集部	初代大橋宗桂天野宗歩両師の石碑に就て 作物象戯秘曲集作品紹介	棋士 古図式	～39号(29回)29番まで

1924. 6	D 95	島田生	棋遊隨筆	隨想		本号が第3回、～2号(8回)
1924. 7	D 96	樂天坊 溝呂木光治	奉祝紀念の一日 朝鮮より	隨想 隨想		～D97号(2回)
1924. 8	D 97	阿部露秋 編集部 編集部 編集部	棋士と人格 清交會沿革大要 嚴島神社奉額圖に付て 本誌改正と誌代直上の豫告	棋士 組織 古図式 告知	23	指将棋の研究競技の会（講師木村義雄） 「ありましたそうですが・・・取はずし・・・取調べ御通知する」 「現在愛讀者は二千人に近い」
1924. 9	D 98	江南メ蔵	前號棋士と人格に就て 宮松六段語る	棋士		
1924. 10	1	編集部 木見金治郎 頓珍漢子	本社詰将棋顧問 加藤文卓先生 中將棋に就て 新作落語 懸賞	選者 中將棋 文芸		盤、駒の並べ方、駒の動き、詰物1局
1924. 11	2	櫻井三桂 飯島正郎	將棋一夕話 勳功	隨想 隨想		
1924. 12	3	編集部 飯島正郎 浦部生 阿部露秋 加藤文卓 編集部	謝辭 併送歳の御挨拶 凝視 將棋と相撲 小春日和 詰将棋新題を募る ハガキ集	挨拶 隨想 隨想 隨想 作品 投書		將棋月報社主催東西聯合將棋大會の謝辭、「三千の誌友」の文字あり ～4号(2回)  使用駒 1 4 枚作品（応募作4～5号） 常設コーナー ～12号(5回)
【T14】						
1925. 1	4	浦部南總 飯島正郎 木見金治郎 編集部 夢似成金 冬の家炬燵	精神修養 私が將棋を覺へたの記 棋客氣質 詰将棋 冬の夜物語 實話 悔恨の涙 將棋小説 棋士の娘	隨想 隨想 棋士 作品 隨想 文芸	23	～15号(6回)  酒井桂史初入選  ～5号(2回)で中断
1925. 2	5	木見金治郎 西原榮記 浅川・阿部	出京偶感 詰將棋の優者 小木君を悼む 初旅	隨想 解答者 隨想		
1925. 2	6		—————			臨時発行（A5判変型4ページ）
1925. 3	7	高村徳次郎	善用せよ	隨想		

		南總棋客	敗北	随想		
1925. 4	8	久良田耕男 山村兎月 編集部	坂田八段の名人問題を厳正批判す 滑稽詰將棋 讀者の聲	棋界 変則 投書	23	ほかに名人問題、段位問題の論評多数 1 一玉・攻方1 三步に持駒飛香、「眞面目では詰みません」とある 常設コーナー、断続的に～146号
1925. 5	9	遮莫庵 編集部	妙味 將棋歌壇	棋界 文芸		ほかに名人問題の論評多数 俳句、なぞなど等も含む常設コーナー ～36号
1925. 6	10	遮莫庵	歩一歩	随想		
1925. 6	11		————			臨時発行 (A5判変型4ページ)
1925. 7	12	遮莫庵	時勢と將棋	随想		
1925. 7	13		————			臨時発行 (A5判変型2ページ)
1925. 7	14		————			臨時発行 (A5判変型4ページ)
1925. 8	15	遮莫庵 菅野友洲	敵をも愛せ 新題詰將棋懸賞募集	随想 作品	23	飛角桂不使用作品 (応募作16～17号)、作品懸賞(賞品)募集の嚆矢
1925. 9	16	遮莫庵 島田與平 高橋與三郎	人生と定跡 棋遊隨筆 新刊詰手披露	随想 随想 作品集		～17号(2回) 「將棋眞田」
1925. 10	17	井上秋畦 誠示堂主人	趣味の効用 將棋と運命	随想 随想		～23号(7回)
1925. 11	18	棋狂生	下手の放言	随想		
1925. 12	19	前田三桂 鈴木旭山 筑南老人	詰將棋と必死 將棋狂句に就て 桂詰	随想 文芸 変則		玉方5 一桂・持駒歩3
1925. 12	20		————			臨時発行 (A5判変型4ページ)
【T15】						
1926. 1	21	一記者 編集部 將棋普及會 編集部	大正十四年 棋界回顧録 丸山正爲作 新年詰將棋 飛角を入れ替る法 詰將棋解答者列傳	棋界 作品 パズル 解答者	23  23	「オメデタウ」あぶり出し連作



1926. 9	30	前田三桂 古川生 飯島正郎 編集部	月報よ。讀者よ 將棋小論 愛の言葉 懸賞詰將棋	随想 随想 随想 作品		「月報五千の讀者」の文字あり  新作のほか「無双」90番
1926.10	31		—————			臨時発行（A5判変型4ページ）
1926.10	32	前田三桂 丸日山人 編集部 大江歩進 編集部	養眞圖式存疑 二王に就て 大衆將棋公開 詰物自作の苦心 懸賞詰將棋	古図式 棋界 指將棋 作図 作品	23	不完全作と類似作33局の指摘 ～49号(14回) 名人問題 「日本將棋界初まって以來空前の屋外大手合せ」  新作のほか「舞玉」より ～55号(16回)
1926.11	33		—————			臨時発行（A5判変型4ページ）
1926.11	34	前田三桂 丸山正爲 編集部	詰乎必死乎 何にやかや 智恵競らべ	指將棋 随想 パズル		～42号(3回) ～42号(5回) 「当たりなしに全駒配置」に歩1枚追加せよ
1926.12	35		—————		23	A5判変型4ページ 懸賞詰將棋の中に「無双」100番、塚田正夫初入選
【S2】						
1927. 1	36	瀧谷正郷 松井雪山 山村兎月 丸山生 横田幸歩 編集部	坂田三吉氏の將棋圖巧改作を評す 前田氏の詰乎必死乎を評す 詰むか詰まぬか 智慧くらべ 我儘勝手詰將棋 懸賞詰將棋	古図式 指將棋 古図式 変則 変則 作品	24	「図巧」9番  詰手順募集 「無双」37, 73番 特殊条件つき詰図 「次號に拙解申上る」とあるが次号以降になし 王手条件なしばかり詰 新作のほか「無双」90番
1927. 1	37		—————			臨時発行（A5判変型4ページ）
1927. 2	38	瀧谷正郷 前田三桂 横田幸歩 佐藤棋工 菊地桂秋 詰將棋黨一人 小倉生	詰將棋の研究 雨乎風乎（詰乎必死乎の餘譚） 圖巧に就て 旅行十日間 詰將棋採點に就て 詰むか詰まぬか 詰將棋變化に就き桂秋君へ	余詰 指將棋 古図式 大道棋 評価 古図式 論評		大崎八段作と「玉図」38番 ～39号(2回)  大道棋実見記(T15. 11. 15) 大道棋についての記述の嚆矢  詰手順募集 「無双」62, 88番
1927. 3	39	長井勇 十八庵	將棋私觀 「詰か必死乎」に就て	随想 指將棋		～50, 66～71号(14回)

1927. 4	40	松井雪山	再び前田氏の必死説に就て ——	指将棋	24	～46号(4回) A5版変型8ページ
1927. 5	41	瀧谷正郷 櫻井三桂 丸山正爲 前田三桂 耕男生	余小話技 雪ふる日 拙感のまゝ 後の砂上の偶語 羽後酒田の棋王 竹内八段由來記	随想 随想 随想 論評 棋士		目次は「余話 小技」、或いはこちらが正しいか（内容からは判断不可） 坂田三吉「將棋秘手」2, 4, 12, 16, 31図 櫻井氏の將棋秘手に就て、前田氏の養眞圖式存疑に就て ～46号(3回) ～46号(5回)
1927. 6	42	鈴木旭山 櫻井三桂 櫻井三桂 編集部 編集部	將棋中毒と雑感 暖かい日に浴して 風吹く夜 雪降る日の續稿 詰手幼稚園 棋友人氣投票の總決算	随想 随想 随想 作品 指将棋	24	坂田三吉「將棋秘手」20図 坂田三吉「將棋秘手」28, 38, 39図 常設コーナー新設 ～68号 24号で募集の最終結果 1位佐々木香雪、以下前田、酒井、丸山、北
1927. 7	43	前田三桂 十八庵 前田三桂 編集部	千日手とは何ぞ 再び前田氏に問ふ 續砂上の偶語 懸賞詰將棋	規約 指将棋 論評 作品	24	～46, 51～54号(6回)  新作のほか「攻格」より ～50号
1927. 8	44					[なし]
1927. 8	45	十八庵 前田三桂 鈍感子 丸山正爲 櫻井蘇月 松井雪山 鈴木旭山 天狗堂 濱田生	長井君に呈す 詰乎必死乎續論 十八庵氏に答ふ 詰乎必死乎の論争を廢めよ 詰むか詰ぬか 文藝俱樂部登載 土居八段作 詰物を評す 續古今棋書評話 新作落語 千日手 物しりの桂さん 將棋笑話	論評 指将棋 指将棋 指将棋 評価 棋書 文芸 文芸 文芸		(一)とあるが次号以降に続きなし  文藝俱樂部 土居作批判  ～88号(23回) 26～42号より続く、161号より「續々」  コント
1927. 9	46	岩浅兩桂 前田三桂 十八庵 丸山正爲 丸山正爲 司生	素讀偶感 友情 論争の幕を閉ず 偶感二題 第一問題 歩詰不可の論據を問ふ	随想 随想 指将棋 作図 余詰 規約		変長と作意 文藝俱樂部 土居作指摘
1927. 10	47	長井勇	前田氏訪問記	論客	24	

1927. 11	48	岩浅兩桂 順慶 丸山正爲 横田幸歩 伊藤生	隨筆 詰物創作圖の手順に付いて 斬姦論詰圖評に答ふ 必死の研究 大道將棋	隨想 作図 論評 作品 大道棋		前号濱野「斬姦論」に対して ～54号(6回) 実見記、詰図7局
1927. 12	49	丸山正爲 高橋與三郎	雜感 未發表の詰物	隨想 隨想		
【S3】						
1928. 1	50	丸山正爲 濟天大聖 順慶 横田幸歩 松井雪山 編集部 編集部	圖式創作の苦驗 月報の五人衆 偶感一束 珍將棋駒 諸書雜考 全國有段者名簿 懸賞詰將棋	作図 論客 隨想 用具 棋書 指將棋 作品		～51号(2回)未完 前田三桂、松井雪山、酒井桂史、櫻井三桂、丸山正爲  大垣田中家藏竹製駒 ～85号(6回) 作成着手の挨拶と長野県分、次号以降に続きなし 新作のほか「貫珠」より ～55号(5回)、「極妙」60番
1928. 2	51	菊地桂秋 丸山正爲 編集部	詰手研究 詰手数に就て 詰將棋創作圖式懸賞募集	解図 論評 作品	24	作品懸賞(賞品、副賞現金)募集の嚆矢、応募作75号  [なし]
1928. 2	52					
1928. 3	53	順慶 一力屋 一見者	再度詰に就て 詰手研究に對して 秘傳「將棋教」	論評 隨想 古図式		「力草」59番類似
1928. 4	54	前田三桂 高橋與三郎	塵塚 詰物作製の苦心並に曲詰二題加評	隨想 作図	24	詰將棋観、「創作圖式懸賞募集」の評価ほか
1928. 5	55	松井雪山 丸山正爲	漫録 拙意の儘	隨想 論評		～67, 77～89号(12回)
1928. 6	56	蘇月生 前田三桂	病床に臥して 失禮御免へたの横槍	隨想 詰抜け	24	月報付録「極妙」(山村兎月編)の誤り指摘 ～124号(61回) 137号より「續」
1928. 7	57	北々星 櫻井蘇月 編集部	月報行進曲 宗桂名人奮戰記 懸賞詰將棋 第一部	隨想 隨想 作品	24	～62号(3回) ～58号(2回) 引間重治作初形曲詰「引違い」あり
1928. 8	58	千葉勝美	懸賞 古今詰將棋研究	作品		～84号(26回) 第1回は「風流」1番類似作と大道棋1局



		今田生 編集部	名人詰将棋百番 現代棋客詰将棋佳作集（上）	古図式 作品集	24	「智実」1番 図100局
1928. 9	59	三歩居士 櫻井蘇月 伊藤勝喜 古川生 編集部	名刀の切れ味 病に臥して 旅感一束 詰の無駄手に就て 第三者より 現代棋客詰将棋佳作集（下）	指将棋 随想 随想 論評 作品集	24	～74号(16回) 「極妙」89番 大道棋1局(解64号)  (上)の解1～38番
1928. 10	60	櫻井蘇月 丸山正爲 編集部	極妙研究の續稿 紙上照會 現代棋客詰将棋佳作集（某三）	古図式 作品 作品集		10, 13, 41番 千葉勝美作口の字詰 (上)の解39～100番
1928. 11	61	順慶 伊藤勝喜 國守棋翁 千葉勝美 田代武雄	再度詰手順に就て 保市より 詰将棋改善の希望 丸山氏にお答え 御大典記念詰将棋	論評 大道棋 論評 作品 作品		～62号(2回) 2局 「以下次號に譲る」とあるが次号以降に続きなし イロハ字3局
1928. 12	62	横田幸歩 上田三歩 橘留吉	初代伊藤宗看作 駒競解説 竹内八段訪問記 竹内氏時事を語る 象牙製将棋彫駒と角製将棋駒に就て	古図式 棋士 用具		図97～100番、解1～42, 44～53番
		<b>【S4】</b>				
1929. 1	63	櫻井蘇月 横田幸歩 松井雪山 櫻井三桂 九九生	極妙の研究 駒競解説 駒競解説に就て 駒競解説を見て 三代名人伊藤宗看圖式	古図式 古図式 古図式 古図式 古図式		64, 68, 69, 79番 解43, 54～100番 41, 43, 44, 50, 54, 61, 91, 93～100番 22, 23番 図1～48番
1929. 2	64	今田政一 松井雪山 伊藤勝喜 九九生	将棋教 駒競解説に就て（某二） 大道将棋 三代名人 伊藤宗看圖式	古図式 古図式 大道棋 古図式		23, 34, 60, 66, 68, 70番 59号出題の解、新作1局(解67号) 図49～96番、次号以降に97～100番なし
1929. 3	65	池田光歩 前田三桂 田代武雄	病床漫録 詰将棋の解き方 詰将棋研究	随想 解図 古図式		～69号(5回) ～66号(2回) 「駒競」4～6番、(一)とあるが次号以降に続きなし
1929. 4	66	編集部	懸賞詰将棋 第三部	作品	24	常設コーナー ～160, 167～185号 186号より「第三部競作會作品」に続く
1929. 5	67	池田光歩	将棋禮讃	随想		～69号(3回)

		伊藤勝喜	大道將棋	大道棋		64号出題の解、新作3局(解発表なし)
1929. 6	68	九日山人 高橋與三郎 浦崎勇 千葉將棋所	詰手の苦心 新案紙折盤 水都の初夏より 第十一回懸賞 古今詰將棋研究	随想 用具 随想 変則		九歩縦並び無仕掛、玉方持駒制限
1929. 7	69	前田三桂	初代名人 大橋宗桂圖式詳解	古図式	24	～75号(5回)80局
1929. 8	70	前田三桂	日本一の棋美談語	随想		～77号(8回)
1929. 9	71	竹内淇洲 千葉勝美 前田三桂	緑蔭棋譚 面白き懸賞(一にぎり詰) 詰將棋創作圖審査に就て私の採点標準を述ぶ	随想 作品 評価	24 24	「日刊荘内」より転載 ～102号(28回) 72号より「酒田棋譚」 応募作73号、駒を変えて～80号(8回) 回転率の考え方
1929. 10	72	前田三桂 池田光歩	奇策縦横 左香車落之部 續病床漫録	指將棋 随想		～106号(27回) 引続き106号より「平手相懸り集」 ～74号(3回)
1929. 11	73	前田三桂 前田三桂 飛角庵 前田三桂 編集部	三代宗看第一番 詰將棋欄への希望 前田氏の審査法に就て 飛角庵へお答へ 編輯後記 加藤文卓氏の訃報	古図式 詰棋欄 評価 評価 選者	24	「無双」
1929. 12	74	高戸天馬 丸山明歩	科學か藝術か 詰將棋欄規定改正に就て	随想 詰棋欄		
		<b>【S5】</b>				
1930. 1	75	前田三桂 前田三桂 齋天大聖 へタの横槍 三歩居士 高橋與三郎 千葉將棋所 横田幸歩 丸山明歩 鈴木旭山	初代大橋宗桂圖式 解後の感 初代宗桂時代の將棋 棋夢五題 棋士姓名判断所 讀者評判記 九折將棋盤 第十八回 懸賞古今詰將棋研究 創作圖審査に就て 審査發表に當りて 新作落語 緊縮馬の春	古図式 將棋史 随想 文芸 讀者 用具 作品 評価 評価 文芸	25 23	コント風 ～76号(2回) ～79号(5回) 携帯用、新案特許 新作と「極妙」98番
1930. 2	76	火の見番人 千葉將棋所	詰將棋妄評 第十九回 懸賞古今詰將棋研究	論評 作品		田代武雄作一段目実戦初形と「舞玉」42番

1930. 3	77	蘇月生 高橋興三郎	寺の雪を眺めつゝ 詰手に關する自信	随想 随想		
1930. 4	78	内海嘉彦 前田三桂 前田三桂 前田三桂	將棋と心理學 春風秋霜 一手王手を排斥す 名人大橋宗古圖式詳解	随想 随想 作図 古図式	25 25	～81号(4回) 「一手王手」とは、それ以外王手を掛ける手がない場合の一手 ～87, 93～97号(14回)
1930. 5	79	高戸天馬 山村金五郎	横槍讚美論 特別懸賞詰將棋	随想 古図式		「舞玉」100番、「大矢数」5番(解82号)
1930. 6	80	山本・小田他	詰抜け感想	詰抜け		
1930. 7	81	櫛谷・田代他	詰抜け感想	詰抜け		
1930. 8	82	みのる生 明歩生 田代武雄	夕涼 社村宮本より 解答募集	文芸 随想 変則		コント、大道棋2局  「解答募集」とあるが、5五裸玉で玉方持駒制限ありの作品募集
1930. 9	83	山村兎月 丸山明歩 岸本昌三	三代伊藤宗看圖式解説 懸賞圖式募集 特別課題	古図式 作品 変則	25 25	～87, 98～111号(11回) 盤面駒6枚持駒なしの作品、「六年圖式」として応募作発表87～94号 前号「解答募集」の再掲、田代を岸本に訂正、玉方持駒制限の記述なし
1930.10	84	木村長次郎	偶感	随想		
1930.11	85	金太郎 服部安光	夜見世 詰棋創作に當面して	大道棋 作図		コント風
1930.12	86	内海嘉彦 天馬生	續素人觀 笑話 飛車の角行	随想 文芸		コント
【S6】						
1931. 1	87	田代武雄 松井雪山	詰將棋雜觀 古書解題	随想 棋書		～97号(9回)
1931. 2	88	前田三桂	對局制度の改善	指將棋		
1931. 3	89	吉田亮歩 野田重雄 誠示堂主人	打明噺 思ひ出した儘 棋家と運數學	随想 随想 棋士		大道棋1局 ～98号(5回)
1931. 3	90		———			臨時発行 (B4判2ページ)

1931. 4	91					[なし]
1931. 4	92	九日山人 山田芳久	雪の春日 「ぜんま」の事ども	随想 随想		～93号(2回)
1931. 5	93	前田三桂 白崎光三 松井雪山 九日山人	月報の使命 偶感 雑俎 将棋オリンピック	随想 随想 随想 文芸		～104号(11回) コント
1931. 6	94	一記者	痛快事三題	随想		
1931. 7	95	鈴木旭山 東山生	将棋詩に就て 出放題	文芸 随想		大道棋1局 (一)とあるが次号以降に続きなし
1931. 8	96	鈴木旭山 天馬生 編集部	淇洲八段の将棋詩を讚す ユーモア一話 初段駒井 懸賞詰将棋 第一部	文芸 文芸 作品	25	～108号(10回) 酒井桂史作「天馬空行」あり
1931. 9	97	森永龍	棋道回想録	指将棋		～98号(2回)未完
1931.10	98	藤原桂山	後継名人問題と棋道改革案に就て	棋界		
1931.11	99	松井雪山	宗古時代の将棋	指将棋		末尾に十四屋宗安、別所素庵、荻野眞甫の詰図
1931.11	100					[なし]
1931.12	101	山田龍歩	棋革新論争	棋界		
<b>【S7】</b>						
1932. 1	102	松井雪山 耕男生 關根三吉 大矢生 田代武雄 桑島鈍聽子 津田國松 岩木錦太郎 山村兎月	本誌十歳に際して 月報と私 素人聯盟を作れ 婦人と将棋 オール讀者號に寄せる 名人問題に就て 詰棋の優秀者に段位を授與せよ 足りない駒 二代名人 伊藤宗印圖式	随想 随想 組織 随想 随想 棋界 段位 随想 古図式	25 25    25  25	ほかに名人問題の論評多数  「勇略」解答募集～121号(12回)60番迄、解説105～128号(16回)100番迄
1932. 2	103	大矢生	将棋の哲學的根據	随想		(一)とあるが次号以降に続きなし

		編集部	三人將棋欄	変則	～110号(8回)
1932. 3	104	岩木錦太郎 浦島生	街頭棋士となる 八世宗桂圖式 第百番に就て	大道棋 古図式	1局 「大綱」
1932. 4	105	良龍生	棋界寸談	棋士	
1932. 5	106	前田三桂 岩の家錦太郎	奇策縦横 平手相懸り集 新作落語 將棋家主	指將棋 文芸	～108号(3回) 左香車落之部より続くが、この回を(一)としている
1932. 6	107	彌次郎	珍手さがし	随想	～108号(2回)
1932. 7	108	耕男生 岩木錦太郎	最近の關根名人 名古屋遊杖記 某後の賀茂衛門	棋士 文芸	
1932. 8	109	岩木錦太郎 蘇月生 天馬 一記者 須田爲總 橘留吉	銷夏漫録 漫筆 將棋短編小話 中津川の銀子 登山と將棋 日本アルプスに響く駒音 將棋一年生の人のために 象牙製將棋駒と角製將棋駒に就て	随想 随想 文芸 紀行 指將棋 用具	～115号(7回) ～116号(6回)未完、末尾に「詰將棋教科書」111～117号(5回)
1932. 9	110	岩木錦太郎 蘇月生	大道詰將棋論 ある棋客の手記	大道棋 随想	2局 ～114号(5回) 最終回文末に(續)とあるが次号以降に続きなし
1932.10	111	岩木生 小谷桂石	勝生氏遺稿 將棋談	古図式 随想	3局 第一番は2つの詰物を一図に収めたもの
1932.11	112	九日山人	落葉笈	随想	
1932.12	113	前田三桂	千日手指直しに就ての卑見	規約	
【S8】					
1933. 1	114	松井雪山 大矢生 里見義舜 津田國松 清水清 岩の家錦太郎	將棋辞典 坂田三吉氏に會見しその心境を聴く 將棋はどうすれば早く上達するか 手数多き詰圖を希望 詰將棋諸々私見 新作落語 理屈	用語 棋士 指將棋 論評 論評 文芸	26 26 ～139号(20回)未完「い」から「と」まで
1933. 2	115	藤原桂山	千日手解決案	規約	

1933. 3	116					臨時発行 (B4判2ページ)
1933. 3	117	竹内淇洲 清水清	偶感 二代目伊藤宗印作 不成百番解説	随想 古図式	26	114号坂田会見記の感想 「精妙」 ～119号(3回)40番まで
1933. 4	118					B4判2ページ
1933. 5	119	耕男生 弄駒亭主人	最近の關根名人 新潟から長野へ 養眞圖式の新研究	棋士 古図式		～121号(2回)1, 7, 36, 66, 67番
1933. 5	120					臨時発行 (B4判2ページ)
1933. 6	121	モーロク爺 臥龍山人 天馬 岩木錦太郎	皆さん今日は お盛んで結構です 駒名使用故人見立番附 将棋小話 豆由の失敗 「詰将棋大全集」刊行豫告に就て	随想 番付 文芸 図式集	26  26	東横綱一坂本龍馬、西横綱一桂小五郎以下
1933. 7	122	A B C 生 波多野完治 飯島正郎 飯島正郎	各新聞紙における 棋譜掲載形式論 金子八段の性格學 作品 七の繪像	棋譜 棋士 随想 随想		定跡と指将棋と詰将棋の3区分 ～128号(6回)
1933. 7	123					[なし]
1933. 8	124	飯島正郎 一記者 彌次郎 山村兎月 大全集刊行會	将棋改革案 将棋二百手講 放送将棋を聴く 天童町の駒から 三代宗看圖式不詰五局に就て 詰将棋大全集 全二十一卷 會員募集	規約 指将棋 用具 古図式 図式集	26	「無双」 37, 62, 73, 74, 88番 全巻目次 (2 1 冊の書名)
1933. 9	125	一記者	關根名人の近況 三度目の北海道遊杖 名人大橋宗英選 将棋奇戦	棋士 棋譜		「巻末特輯」 ～126号(2回)
1933. 10	126	一志桃園 耕男生 岩木錦太郎 刊行會同人	将棋・その他 關根名人の近況 水戸市の全茨城大會 三代宗看圖式考 詰将棋大全集廢刊の已むを得ない事情	随想 棋士 古図式 図式集	26	「無双」 37, 62, 88番
1933. 11	127	耕男生 飯島正郎 編集部	最近の關根名人 若い自分を發見した話 無風 名人大橋宗英著 将某輝光	棋士 随想 棋譜		「巻末特輯」 ～128号(2回)

1933. 12	128	飯島正郎 耕男生 飯島正郎	現代棋話 最近の關根名人 靈峰富士を仰ぐ 重壓	随想 棋士 随想		～130号(3回) 130号タイトル「樋口兼尊と」
【S9】 1934. 1	129	耕男生 編集部 西澤仁悠 津田國松 天馬 小林豊 丸山明歩	最近の關根名人 聯盟に新氣運動く 月報讀者 新春大棋談會 一盃機嫌 偶感 將棋小説 飛道角道 一つの研究 詰將棋第三部集百番	棋士 座談會 随想 随想 文芸 変則 作品集	26	松井・大家・藤原・星山・藤綱・龍島・小林・東・手塚・松本・耕男  使用駒と詰手順から詰図を求める、懸賞課題1局 (解132号) 「巻末特輯」
1934. 2	130	岩木錦太郎 岩木 杉本秀月生 みのる生 西澤仁悠 鈴木旭山	詰將棋閑話 三代宗看圖式訂正圖 想像卍車 笑ひ泣き 月報娛樂會所 新作落語 反對照語	随想 古図式 文芸 随想 大道棋 文芸		詰將棋図式の数、福島万兵衛・無住庵僊逸・久留島喜内ほか 「無双」61, 74番補正、139号に61番余詰のお詫び  ～131号(2回) 各号1～4局懸賞募集 ～171号(29回)
1934. 3	131	杉本秀月 杉本秀月 山村兎月 編集部	宗桂と本因坊 巴千鳥 詰將棋大矢數に就て 伊藤宗印編輯 天野宗歩手合 將棋手鑑	逸話 文芸 古図式 棋譜		～152号(9回)21～52番 ～135号(3回)
1934. 4	132	耕男生 吉田靜山 岩木錦太郎 岩木錦太郎 杉本秀月 ALL SUNDAY 杉本秀月 杉本秀月	棋家印象記 關根名人を偲ぶ 王將と玉將 座談會 將棋を語る 宗助作圖式六局 心に映じたまゝを 偶感 諧謔小説 徒盛り 新作落語 浮世床	棋士 用具 座談會 古図式 随想 随想 文芸 文芸		岩木・松田・太田・伊藤・東野・竹中・奥田・人見・小林 8局中1～6番  ～133号(2回)
1934. 5	133	小杉次郎 吉田靜山	古棋書の蒐集に就て 一茶の將棋俳句	棋書 文芸		
1934. 6	134	一記者	對話から試問	指將棋	26	「入玉勝利案に就て」読者の賛否を問う
1934. 7	135	耕男生 臥龍山人 岩木錦太郎	關根名人旅行記 福岡から呉市へ 大道棋の話 入玉勝利案に反對	棋士 大道棋 指將棋	26	～136号(2回) 最終回文末に(以下次號)とあるが次号以降に続きなし

1934. 8	136	明歩生	三代宗看圖式に就て	古図式		「無双」 57番
1934. 9	137	小杉次郎 前田三桂 杉本兼秋	萬治板「象戯圖式」に就て 續失禮御免への横槍 カケ将棋の眞隨	図式集 詰抜け 指将棋	26	「駒競」 ～153号(13回) 186号より「續」なしで再開
1934.10	138		—————			B6判 8ページ
1934.11	139	耕男生 小杉次郎 日下明正	關根名人と本因坊の無軌道行脚物語 大橋家初代二代の「象戯圖式」に就て 秋窓雜筆	棋士 図式集 隨想		詰図2局
1934.12	140	小杉次郎 飯島正郎 編集部	古棋書に就て 晴曇 懸賞詰将棋	棋書 隨想 作品		～141号(2回) 新作のほか「手鑑」～146号(6回)1～4, 6, 10, 12, 15, 18, 21番
<b>【S10】</b>						
1935. 1	141	大家増三 植野八十八 耕男生	将棋の座談會 古代名家棋譜 新春棋談五人會	座談會 棋譜 座談會		「サンデー毎日」より転載、土居・花田・木村・金子・萩原ほか 初代宗桂对本因坊算砂ほか 飯島・藤原・日下・伊藤・國守
1935. 2	142	西澤仁悠 西澤仁悠	大道将棋研究室 大道詰将棋講座	大道棋 大道棋		娛樂會所の中に新設 ～164号(14回) 娛樂會所の中に新設 ～153号(10回) 150号より「大道詰将棋考據」
1935. 3	143	小杉次郎 飯島正郎 耕男生	三代目宗看の象戯圖式に就て 烏丸 關根名人の引退に就て	図式集 文芸 棋界	26	コント
1935. 4	144	松井雪山 前田三桂 水谷 遊歩生	名人退位後の前後策に就て 名人は誰？ 大道詰将棋問答 大道詰将棋實觀記	棋界 棋界 大道棋 大道棋	26	ほかに名人問題の論評多数
1935. 5	145	岩木錦太郎 耕男生 九日山人 愛飛生 山村兔月	日本将棋と支那将棋 最近の關根名人 廣島に於ける名人 日記の抜抄 所感 三代宗桂圖式	将棋史 棋士 隨想 隨想 古図式		大道棋実見ほか 目次は「愛棋生」、或いはこちらが正しいか 図のみ1～100番
1935. 6	146	里見凸歩 山村兔月	詰将棋作品の價値に就いて 三代宗桂作 将棋衆妙解答	作品論 古図式	26	1～100番



1935. 7	147	好棋子 里見凸歩 山村兎月	素人と玄人 棋士迷々傳 詰將棋妙手の目的を解剖す 二代伊藤宗印著 將棋圖式	棋士 作品論 古図式	26	～148号(2回) ～150号(3回) 「勇略」 図～153号(3回) 解153号(1回)
1935. 8	148	MO生 蒐集狂生 伊藤正藏	將棋哲學 坂田三吉氏實話 初めて月報を見て 詰將棋作品に就いて	棋士 古図式 作品		「大阪朝日新聞」より転載 随想、棋譜、詰図など ～150号(2回) 文末に「綱目」47局 類似作指摘と自作1局
1935. 8	149					[なし]
1935. 9	150	南茂樹 里見凸歩 南茂樹 編集部	六七級ファンの漫談 詰將棋講座 科學的將棋研究法 大毎東日主催 全日本素人將棋選手権大會	随想 作品論 指將棋 指將棋		土居作詰図1局 ～157号(5回)  各地方予選の状況
1935. 10	151					[なし]
1935. 11	152	小杉次郎 杉本兼秋 編集部	珍本一種 將棋家元畧系譜 全素人選手権優勝大會	棋譜 家元 指將棋		鈴木玄将の実戦譜の写本 ～153号(2回) 長谷川清二郎初段の優勝を伝える
1935. 12	153	夢想棋樂 奪線小僧 王將生 編集部	壇想 棋界漫評 將棋八方眼 懸賞詰將棋 第一部	随想 棋界 随想 作品		～154号(2回) 新作のほか赤池「將棋威光」30番
<b>【S11】</b>						
1936. 1	154	前田三桂 神福德三郎 編集部 今田政一	將棋聯盟の分裂を惜しむ 將棋聯盟分裂の真相 日本將棋革新會設立 古棋書に就て	組織 組織 組織 棋書	27	ほかに連盟分裂問題の論評多数 「東京朝日新聞」より転載
1936. 2	155	詰棋狂 子馬多愚留 田邊重信 編集部	何や彼や 夕陽の落つる時 碁と將棋の展覽會をみる 懸賞詰將棋 第一部	随想 随想 見聞記 作品		文末に10年間の「出題圖統計表」「作圖家番附」「解答者統計表」など ～159号(3回) 159号タイトル「昔日語るもの」 盤駒・棋書ほか出品物の詳細、会期中の新作詰棋12局 新作のほか「貫珠」21番
1936. 3	156		———			臨時発行 B5判変型4ページ
1936. 4	157	里見凸歩 杉本兼秋	詰將棋と指將棋 詰將棋講話	随想 詰棋論	27	詰將棋盛衰史、現代詰將棋觀、詰將棋作家協會の設立、芸術的価値ほか

		宮本弓彦 九日山人 杉本兼秋 里見凸歩 杉本兼秋 里見凸歩 田邊重信	將棋三まい 棋外の趣味 詰將棋創作室漫談 詰將棋の理論 焼直しを廢せよ 私の研究室 現代名家 圖譜考檢	随想 随想 詰棋論 詰棋論 盜作 類似作 作品	27	文末に「智実」21, 47, 50, 54番 「攻方最短」規定は不要  ～158号(2回) 他紙誌掲載作品を転載し解答募集 ～176号(19回)
1936. 5	158	錦生 宮本弓彦 宮本弓彦 杉本兼秋 初心者 蒐集狂生	鬼木村 愚人の日記 詰將棋に就て 現代詰將棋論 不可思議 河村古仙作 將棋貫珠解説	随想 随想 随想 詰棋論 類似作 古図式		「新青年」より木村義雄「將棋と探偵小説」を転載   ～160号(3回)
1936. 6	159	蘇月生 棋遊閑人 杉本兼秋 鈴木旭山 杉本兼秋 里見凸歩 櫻井蘇月 初心生 編集部	思ひ出すまゝ 詰棋漫談 詰將棋の藝術價值 構想と推敲 詰將棋の規定に就て 續詰將棋講座 アマチュアチェス倶楽部 本會創立の趣旨 將棋このごろ 宗印名人頌徳碑	随想 随想 詰棋論 作図 規約 作品論 チェス 随想 棋士	27	～170号(9回)   ～160号(2回) 建立の記事
1936. 7	160	一記者 耕男生 G K生 宮本弓彦	大崎八段が三十年の棋士生活を語る 分裂騒ぎ圓滿解決 大成會の誕生 將棋漫筆 將棋日誌	棋士 組織 文芸 随想	27	～163号(3回) 式亭三馬「古今百馬鹿」の紹介 ～241号(64回)
1936. 8	161	天馬生 松井雪山 一讀者 上田庄平 桂有も人 松井雪山 蒐集狂	將棋隨感録 二宮尊徳翁の 碁將棋觀 寄書 創作圖式三題 將棋用語番附 續々古今棋書評話 九代大橋宗桂著 圖式百番解答	随想 随想 論評 作品 用語 棋書 古図式	27	～163号(2回) 詰將棋記事が多くなってきたことへの不満  軽口 ～163号(2回) 45～88号「續」より続く ～179号(13回) 最終回に番外として他図式集より17局
1936. 8	162					[なし]
1936. 9	163	宮本弓彦 芳里庵	將棋術語 水無瀬駒	用語 用具		～164, 172号(3回)「イロアク」だけで中断

		初心者	下手でも詰棋	随想	
1936. 10	164	飯島正郎 宮本弓彦 編集部	詰将棋創作募集 名古屋新聞 将棋愚考 懸賞詰将棋 第一部	随想 随想 作品	27 詰むや詰まざるや古作3局（解発表なし） 「橘仙貼壁」～166号(3回)12局、結果発表号に「橘仙貼壁氏作」と
1936. 11	165	高橋與三郎 編集部	詰むか詰まぬか 全日本素人将棋選手権優勝大會	作品 指将棋	十四屋宗安作1局 第二回、橋本駒二郎三段の優勝を伝える
1936. 12	166	岩木錦太郎 杉本兼秋	チェス欄 チェス紹介號 江戸時代初期の将棋	チェス 棋譜	27 盤駒、駒の並べ方、駒の動き、定跡、棋譜 初代宗桂对本因坊算砂2局
<b>【S12】</b>					
1937. 1	167	岩木錦太郎 九日山人 杉本兼秋 松岡生 平林生 田代武雄	チェス欄 新作落語 将棋と衛生 江戸時代の将棋 實戦詰将棋 詰むか詰まざるや 詰将棋第一部集（上巻）	チェス 文芸 棋譜 作品 作品 作品集	27 定跡、棋譜、詰チェス  初代宗桂对本因坊算砂ほか 実戦の終盤 他作の途中図 卷末特集 1～60番
1937. 2	168	誠示堂主人 天馬 田代武雄	運は天に在り 棋雨棋風 詰将棋第一部集（上巻）	随想 随想 作品集	27 ～172号(3回) 172号タイトル「棋窓棋語」 卷末特集 61～100番
1937. 3	169	關根金次郎 白黒小僧 臥龍山人 智恵壽狂 宮本弓彦 編集部	将棋の將來 チェス欄 チェスの今後 チェス書昔物語 チェスの先驅者 報知新聞  偶感 作物象戯秘曲集	随想 チェス チェス チェス 随想 古図式	「東京朝日新聞」より転載  ほかに棋譜、定跡  31～46番
1937. 4	170	飯島正郎 南無三子	中部日本将棋研究所所懐 将棋夜話	組織 随想	設立の経緯、ほかに中部研究会の記事・棋譜多数
1937. 5	171	一記者 棋樂生 宮本弓彦	銀翼神風を送って 南船北馬の關根名人 詰将棋研究 現代詰将棋の價値	棋士 余詰 古図式	他誌の余詰 古作1局（作者不明、解発表なし）
1937. 6	172	飯島正郎 山田芳久 松谷定登 九日山人	つめぎは一束 床宗さん 或日の朝 春宵隨筆	随想 随想 随想 随想	「詰め際」

		大木春夫	村の將棋	随想	
1937. 7	173	耕男生 桂之生	旅味に浸たる 關根名人 掌の中の王様	棋士 随想	
1937. 8	174	杉本兼秋	随感随想 詰將棋、其他	随想	
1937. 9	175	飯島正郎 凡棋生	夏の斷層 暑中遊歩記	随想 随想	
1937.10	176	大木春夫 耕男生 宮本弓彦 吉田正直 杉本兼秋	緑蔭棋語 四度目の北海道旅行 温泉巡りの關根名人 偶感 一にぎり詰 大道詰棋に就て	随想 棋士 随想 作品 大道棋	3局
1937.11	177		—————		B6判8ページ
1937.12	178	宮本弓彦 杉本兼秋 空々閑人 杉本兼秋 新入生 杉本生	天野先生略歴 理想と現實 將來の詰將棋創作分野に附いて 新雑誌に望む 詰將棋小品創作に付いて 詰將棋漫筆 今思つてゐる事	棋士 詰棋論 棋誌 作図 随想 随想	27 付、コント「或日の天野宗歩」 「無双」15番、「図巧」62番 6局 無住仙逸のことほか
【S13】					
1938. 1	179	空々閑人 恵比壽亭福丸 紺狩亭柿餅 編集部 凸山・早飛車 松井雪山 里見凸歩 覆面作家 正義派 杉本兼秋	將棋初談議 新春娛樂大會 漫談 縦横論 落語 僕の腕前 諸種娛樂室 万才 熱戦を語る 新誌「將棋世界」を讀みて 浪漫車 現代詰將棋界展望 小出版業者の棋書無責任發行に鐵槌を加ふ 創作詰將棋 古今名作觀賞	随想 文芸 文芸 パズル 文芸 棋誌 随想 棋界 棋書 古図式	27 ～189号(9回) 180号より「將棋談議」 駒入替えパズル、笑話ほか 理想的には攻方最短は不要 詰図2局 ～180号(2回) 「無双」16局、「図巧」10局
1938. 2	180	宮本弓彦 宮本弓彦 新入生 秀峰生 松月生	續々天野宗歩 富さん御難の巻 旅に病む宗歩 合駒の妙味 類似作品の場合 秘曲集解説	文芸 文芸 作品 類似作 古図式	コント コント 1局 自作2局と「精妙」32番 ～184号(3回)1～30番 169号31～46番を見て別人が

		案山子	義眼	随想		詰図5局
1938. 3	181	宮本生 松井雪山 まぼろし 編集部	天野宗歩續編 市川太郎松の巻 「将棋世界」一月號を讀む 詰将棋對話 懸賞詰将棋 第一部	文芸 棋誌 随想 作品		コント ～183号(2回) 「無双」37番、「図巧」の13局について 「諸国」巻頭作、「橘仙」100番
1938. 4	182					[なし]
1938. 5	183	耕男生	關西に生れた将棋聯盟 上阪の關根十三世名人	棋士		
1938. 6	184	宮本弓彦	續々天野宗歩 渡瀬莊次郎の巻	文芸		コント
1938. 7	185	松井雪山	三代宗看圖式 第廿六番新考	古図式		
1938. 8	186	前田三桂 編集部	失禮御免へタの横槍 懸賞詰将棋 第三部競作會作品	詰抜け 作品	27	～189号(4回) 196号より(一)から再開 常設コーナー ～214号 217号より「第三部」に続く
1938. 9	187	宮本弓彦 宮本弓彦	旅の天野宗歩 富さん江戸の巻	文芸 文芸		コント コント
1938. 11	188	前田三桂 耕男生 久米初男 松井雪山 松井雪山 編集部	酒井先生訪問記 五度目の遊杖 北海道の關根名人 閑話詰将棋 三代宗看圖式 難解新考續研究 御城将棋 宗英時代篇 懸賞詰将棋 第一部	作家 棋士 随想 古図式 棋譜 作品	27	詰図5局 「無双」6, 8, 37, 57, 89番 五代伊藤宗印対徳川家治2局ほか 新作のほか「手鑑」71番
1938. 12	189	前田三桂 前田三桂 東海日出太郎 蒼門寺喬 編集部	詰将棋の検討法 失禮御免へタの横槍 高段棋士の詰将棋に就て 偶感雜記 懸賞詰将棋 第二部	検討 余詰 余詰 作品 作品	27	定例の詰抜け指摘とは別に、臨時に余詰指摘 詰将棋作品今昔 「橘仙貼壁」65, 81番、結果発表191号に「橘仙貼壁氏作」と
【S14】						
1939. 1	190	空々閑人 宮本弓彦 前田三桂 宮本弓彦 杉本兼秋 杉本兼秋	将棋掛合噺 人間天野宗歩 失禮御免へタの横槍 初心詰将棋の研究 創作型の研究 創作型作品に於ける遠打 白翠選圖集 上巻 五十題	随想 文芸 類似作 詰棋論 作品 作品集	28 28	～221号(20回) コント 定例の詰抜け指摘とは別に、臨時に類似作指摘 (一)とあるが次号以降に続きなし 「無双」10, 48, 51番、「図巧」8, 62, 25番、酒井作1局、自作1局 巻末特集 図1～50番、解1～25番

1939. 2	191	宮本弓彦 杉本兼秋	續宗歩とお葉 白翠選圖集 解答	文芸 作品集		コント 25つづき～50番
1939. 3	192	天馬 宮本弓彦 秋風子 宮本弓彦 杉本兼秋 棋好子 里見義周	詰将棋の感 天野宗歩とお葉 創作日誌より 詰将棋の研究 詰将棋断片 詰将棋入門 将棋朗作選	随想 文芸 作図 古図式 規約 規約 作品集	28	コント 「図巧」100番 攻方最短と余詰、玉方最長と平凡手順 妙手説の主張 卷末特集
1939. 5	193	宮本弓彦 芳久生 里見義周 宮本弓彦 宮本弓彦	續天野宗歩 お葉の巻 飯島大兄御机下（詰将棋のことに就いて） 詰将棋に用ひらるゝ成駒に就いて 詰将棋の研究 詰将棋の解ける迄	文芸 随想 詰棋論 作品 解図	28	コント 古作「水車」ほか 自陣成駒の容認 2局 ～195号(2回)
1939. 6	194					[なし]
1939. 6	195	桂子 宮本弓彦 杉本兼秋 宮本弓彦 桂馬 大哲巳太郎	詰将棋を語る 續天野宗歩 旅の天野 詰将棋漫筆 詰将棋の研究 詰将棋断片 懸賞詰将棋雑観	随想 文芸 随想 余詰 随想 棋誌	28	～196号(2回) コント 成駒の位置、詰手順、余詰駒余り、手順と駒数 掲載誌、応募者の苦心、解答の締切日、賞品
1939. 7	196	前田三桂 杉本兼秋 宮本弓彦 大橋香月	失禮御免へ夕の横槍 乾の巻 私の創作室より 詰将棋が出来ると迄 詰将棋の諸問題 将棋習作集三十番	詰抜け 作図 作図 作品集		単行本より転載 ～209号(10回) 210(’40.6)号より「坤の巻」に続く  (一)とあるが次号以降に続きなく、198号より「棋好子」名で(一)から 卷末特集
1939. 8	197	天馬生 大哲巳太郎	将棋小説 奮起 詰将棋から拾ふ	文芸 解答		～202号(4回) なぜか初回が(二) 昭和十四年度上半期「中外商業新報」詰将棋欄解答の統計
1939. 9	198	棋好子	詰将棋の諸問題	規約		～203号(3回)
1939. 10	199	田邊重信	趣味の大道詰将棋	大道棋		卷末特集 ～209号(7回)
1939. 10	200					[なし]
1939. 11	201					[なし]

1939. 11	202	一記者 宮本弓彦 棋好子	十三世名人の近況 天野宗歩 棋話一束	棋士 文芸 随想	コント
1939. 12	203	天馬 三木生 宮本弓彦 編集部	景仰碑と關根名人 詰將棋寢語 凡棋亭漫語 (將棋界今昔物語) 懸賞詰將棋 第一部	棋士 作図 棋界 作品	詰図4局  「橘仙」 118, 119番  [なし]
1939. 12	204				[なし]
【S15】					
1940. 1	205	大哲巳太郎 三木俊 棋好子 杉本兼秋	昭和十四年度 詰將棋界回顧 戦時下の娯樂 詰將棋のパロディに就て 私の古名作鑑賞	詰棋界 作品 類似作 古図式	掲載誌、出題者、出題数、関係書 詰図13局  「精妙」 39, 40, 59, 68, 72番
1940. 2	206	耕男生 天馬生 大哲巳太郎 三木俊	本因坊と關根名人 炬燵と將棋 詰將棋欄から拾ふ 詰棋寢語	棋士 随想 解答 余詰	昭和十四年度下半期「中外商業新報」詰將棋欄解答の統計 ～209号(3回)
1940. 3	207	宮本弓彦 杉本兼秋 編集部	古今將棋漫語 私の古名作鑑賞 懸賞詰將棋 第一部	随想 古図式 作品	218号にタイトル「古今將棋雜記」で続きあり 「精妙」 73, 76, 84, 94, 100番、「玉図」 9, 14, 16番 新作のほか古作1局 (作者不明)
1940. 4	208				[なし]
1940. 5	209	一記者 高戸十三 杉本兼秋	手數將棋と駒臺の由來 棋道半世紀關根名人談 將棋偶感 詰將棋と指將棋に就て 私の古名作鑑賞	棋士 随想 古図式	「玉図」 25, 27, 28, 32, 62, 76, 80番
1940. 6	210	一記者 田邊重信 高戸十三 前田三桂 蒙疆棋人 杉本兼秋 田邊重信 編集部	最近の關根名人 北滿より皆様へ 將棋シンフォニー 失禮御免へタの横槍 坤の巻 蒙疆棋談 私の古名作鑑賞 詰圖揺籃集 懸賞詰將棋 第一部	棋士 随想 随想 詰抜け 随想 古図式 作品集 作品	28 単行本化の紹介 ～246号(30回)未完、244号と245号の間に脱落あり 鶴田諸兄初登場 「無双」 15, 22, 23, 29, 31, 34, 36, 43番 28 卷末特集 ～215号(6回) 有馬康晴初入選
1940. 7	210	宮本弓彦	續天野宗歩	文芸	コント ～222, 223, 227, 239号(5回)

		杉本兼秋	私の古名作鑑賞	古図式		「無双」 48, 51, 59, 60, 67, 91, 97番
1940. 8	211	耕男生 宮本弓彦 有馬康晴 藤井朗 杉本兼秋	抗まれた真剣勝負 棋道半世紀關根名人談 精神的國技將棋 作圖の苦心 詰將棋の餘談 私の古名作鑑賞	棋士 随想 作図 余詰 古図式	24	他誌の余詰指摘 「図巧」 3, 8, 20, 27, 32, 41, 46, 48番
1940. 9	212					[なし]
1940. 10	213	天馬 東京太郎 一記者 大哲巳太郎 大哲巳太郎 雪隠不詰 上杉敏夫 有馬康晴 高戸十三 編集部 杉本兼秋 藤井朗	將棋漫筆 盤側閑談 關根名人樺太一巡記 將棋の比喻 詰將棋欄から拾ふ 狸の八疊敷 ? 慰問袋と詰將棋 脱線 間宮三段詰棋集 私の古名作鑑賞 自作詰將棋集	随想 随想 棋士 随想 解答 余詰 古図式 随想 随想 作品 古図式 作品集	28	～228号(11回) ～215号(3回) 232号より再開  ソシユール「言語學言論」から將棋に関する比喻の紹介 昭和十五年度上半期「中外商業新報」詰將棋欄解答の統計 他誌の余詰・類似作 ～217号(4回) 「大綱」「手鑑」「図巧」の玉位置 詰図3局  3局 「図巧」 62, 72, 73, 74, 82, 95, 99番 ～214号(2回)
1940. 11	214	耕男生 里見義周 木原銀歩 川邊告次 土屋健	續北海旅行記 將棋の時局性 詰將棋小品 自作詰圖集 圖式習作集	棋士 随想 作品 作品集 作品集	28	4局  ～218号(5回)
1940. 12	215	一記者 深田治良 棋悦居士 有馬康晴	噫山村兎月先生 初歩詰將棋題集 將棋隨想録 初學者心理	選者 作品 随想 詰棋論	28	10局  詰將棋の分類
【S16】						
1941. 1	216	有馬康晴 今田政一	思ひ出の詰將棋 將棋龍光	作品 作品集	28	30局
1941. 2	217	宮本弓彦 有馬康晴 鈍壽庵 編集部	昭和將棋史 競作會餘談 奇蹟的詰將棋 懸賞詰將棋 第三部	將棋史 作図 類似作 作品		～225, 234～241号(11回) 241号タイトル「將棋現代史」 大駒使用率統計  常設コーナー 村山隆治初入選 ～253最終号



1941. 3	218	蘇月生 杉澤信 高戸十三	病床録 思ひ出のまゝ 運	随想 随想 随想		～222号(4回)
1941. 4	219		—————			B4判2ページ
1941. 5	220	麻植長三郎 宮本弓彦 有馬康晴	詰將棋無駄話 續詰將棋の解けるまで 慰問詰將棋	類似作 解図 作品		～222号(3回) 221号よりタイトル「詰將棋アラ探し」 (以下次號)とあるが次号以降に続きなし
1941. 6	221	杉本兼秋 編集部	現代作圖論 月報社「詰將棋賞」設定	作図 論評	28	第1回は「図巧」15番の鑑賞論文募集、優秀解答者に里見義周賞
1941. 7	222	耕男生 原北義行 杉本兼秋 有馬康晴 有馬康晴	北九州の關根名人 天野宗歩師作 大小詰物 追憶の記 駒競と養眞圖式 第二回懸賞課題「有馬賞」	棋士 古図式 作図 古図式 作品		223号に不詰順と補正案 詰図10局 類似作 昭和16年度上半期読者作品人気投票 225号に結果発表
1941. 8	223	富川甚七郎 宮本弓彦 有馬康晴	將棋批點抄 將棋資料としての武鑑 手鑑と養眞圖式	棋書 棋書 古図式		(一)とあるが次号以降に続きなし 類似作
1941. 9	224	里見義周 大手藏人 山田芳久 有馬康晴	第一回詰將棋論文募集結果発表 應募論文評 圖巧第十五番を圍って ひろい書き日記 續駒競と養眞圖式	古図式 古図式 随想 古図式	28 28	「動駒率」の提唱 「當選篇(五圓報國債券呈)」 ～225号(2回) 類似作
1941. 10	225	富川甚七郎 TK生 有馬康晴 麻植長三郎	一話一言 詰將棋作品評価の一つの試み 貫珠と養眞圖式(一名改作三代噺) 自作十番	随想 評価 古図式 作品		～248号(19回) 類似作
1941. 11	226	秋村童二 里見義周 龜井正三 有馬康晴 今田生 村山隆治 佐賀聖一 吉田清一	文壇棋界 詰將棋作品の評価比率について 我が臘書雜記 松井雪山氏をとふ 作圖の屑籠 八代宗桂圖式に就て へボの横槍 まちがひ 鬼魔?駒魔?棋魔?盤魔?	棋界 評価 棋書 作品 古図式 余詰 余詰 作図	28	～228号(3回) 回轉率、動駒率、消去率、變化率、紛れ率、攻勢率 ～227号(2回)22局 「大綱」33番 他誌の余詰 ～228号(3回) 他誌の余詰 ～227号(2回)

1941. 12	227	藤田新太郎 矢村湖月 編集部  前田三桂 有馬康晴 南出岩樹 豊田今吉郎 松井雪山 有馬康晴 角行庵 雲谷生 今田生 アリマ 宮本弓彦 宮本弓彦	将棋小説 かくなれば 小説 易 懸賞詰将棋 第四部  詰将棋噴飯録 悲壯な半日 月報を讀む 詰将棋の規則をつくれ 三代宗看圖式補正完成章 競作會跡始末 一茶と屁と将棋 笑ひ部屋 八代宗桂圖式第五十四番考 第三回「有馬賞」課題 条件付詰将棋創作 珍案懸賞新題 懸賞問題千手をこゆる長手順？	文芸 文芸 作品  余詰 随想 随想 規約 古図式 作品 随想 随想 古図式 作品 作品 作品	～237号(10回)  常設コーナー ～253最終号  「へたの横槍」の臨時、不詰説に詰むとの指摘と余詰指摘 ～228号(2回)  詰図1局  ～233号(7回) ～228号(2回) 詰図241局  龍鋸(応募作232('42.5), 234, 236号)、双方歩なし(応募作230号) 握り詰のこと 229～230号に結果発表 廣瀬善一作 228号に「遂に完成す 千五十三手詰」とあるが手順なし
【S17】 1942. 1	228	編集部 土屋健 宮本生 里見義周 篠崎貴美雄 有馬康晴 波路之嘉善捨 今田生 編集部 佐賀聖一	新春讀者座談會 新人紹介懸賞詰将棋 棋友里見君の詰将棋理念 詰将棋解答のしかた 詰将棋雑記帖 のこぎりびき 月報と詰友 詰将棋餘詰云云 象戲勇士鑑考 第五部教室 餘詰報告	座談會 作品 詰棋論 規約 随想 読者 詰棋論 古図式 作品 余詰	富川、桂、岡田、月野、南出、須永、龜井、竹内、天馬  29 29  「本當の餘詰とは作意解答と同手数詰がある事」 78, 100番 常設コーナー ～237号(9回) 241号より「第五部」に続く 他誌の余詰 ～232('42.5)号(3回)
1942. 2	229	今田生 鈴木旭山 有馬康晴 有馬康晴 三棋生 有馬康晴 佐賀聖一	諸文庫御所藏詰将棋書解題 新作漫談 八の數字 諸事雜考 作者の言葉 必死のお話し 特選詰将棋 アサヒグラフより	棋書 文芸 随想 作図 必死 作品 余詰	(一)とあるが次号以降に続きなし  「228号篠崎貴美雄の『のこぎりびき』とは『追戻し』である」  ～238号(10回) ほかに駒入替えパズルと詰図2局
1942. 3	230	今田生 篠崎貴美雄 篠崎貴美雄 宮本弓彦 麻植長三郎	十代将軍詰手考 宗看の(第ヨン部級) 作品 作品第七十五番に就て 前田三桂訪問記 将棋の旅 将棋玉圖詳解	古図式 古図式 古図式 論客 古図式	29  「攻格」7番 「無双」79番 「無双」  ～235号(3回)15番まで

1942. 3	231	千葉勝美 土屋健	八丁堀便り 圖研會々員創作 懸賞詰將棋	作品 作品	29 清水清作品中心の懸賞出題 ～253最終号(24回) 232号より「思ひ出集」 29 ～251号(20回)
1942. 4	232	不識庵 宮本弓彦 宮本生 宮本弓彦 宮本弓彦 宮本弓彦 圖研會會員 東京太郎 土屋春雄 村山隆治 不識庵	棋書に現はれた 百年前の棋界 將棋日誌 將棋經鈔及び大矢數に就いて 「續」棋友里見氏の詰將棋理念 誌友前田三桂君を訪ふ 詰將棋の出来るまで 曲詰に就いて 出發に當りて 盤側閑談 實戰型など 初心詰將棋解法概説 大橋宗桂と多川勾當	將棋史 古図式 詰棋論 論客 作図 作品 組織 随想 随想 解図 棋士	29 「図巧」99番ほか 29 図研会の発足 ～253最終号(23回) 213～215号より続く  (1)とあるが次号以降に続きなし  ～238号(5回) 106～108号より続く
1942. 5	232	前田三桂 宮本弓彦 一記者 蘇月生 麻植長三郎 千葉勝美 龍雪 土屋健	奇策縦横 棋史校勘記 關根名人の近況 名語愚語 趣味の詰將棋 思ひ出の記 初心詰將棋の考へ方解き方 顯微鏡	指將棋 棋書 棋士 随想 古図式 随想 解図 類似作	～246号(9回) 「智実」22番、「妙案」42番、堀半七作 ～233号(2回) 本号(二)は正しくて、233号(三)が(一)の誤り、掲載順誤 ～233号(2回)
1942. 6	233	伊藤龍之介 宮本弓彦 雪隠翁茂十 櫻井蘇月 麻植長三郎 編集部	古今指將棋集 將棋校勘記 「張り手」と「待ち駒」 伊東の旅 小駒作品鑑賞 回覧板	棋譜 棋書 文芸 作家 作品 投書	29 初代宗桂对本因坊算砂ほか ～236, 237, 238号(4回) 「『妙手詰物』に双方に玉のをはす詰物」ありと 29 コント 有馬康晴訪問記 プロ作5局 「次號ではアマチュアの作品・・・」とあるが、なし 常設コーナー 断続的に～253最終号
1942. 7	234	櫻井蘇月 松井雪山 雪隠翁茂十 不識庵 里見義周 爆弾小僧 棋狂兒	關根十三世名人の怪談昔噺し 餘瀝 完成す！六百十九手！！ 將棋營中日記 海南島雜信 ダムダム弾 棋甘亭雜記	棋士 古図式 作品 棋書 随想 作品 随想	29 ～240号(6回) 29 「図巧」100番改作のパロディー 237号に解 ～236号(3回) 29 ～244号(5回) 駒余り超長編に対する批判 前号「双方に玉のをはす詰物」の図(111号「勝生氏遺稿」第一番)
1942. 8	235	前田三桂	元祖大橋宗桂圖式に就て	古図式	

		前田三桂 宮本弓彦 有馬康晴 蘇月生	術知象戯力草宗桂指南抄 上 棋書校勘記 第二回懸賞作品募集 關根名人緑蔭閑話	古図式 棋書 作品 棋士	～240号(6回)100局 周辺巡り(応募作240号)、飛角図式または持駒大駒4枚(応募作238号)
1942. 9	236	蘇月生 日下雅有 有馬康晴 麻植長三郎	三保の松原縁起の駒 關根十三世名人と『白い駒』 特選詰將棋 第八回 詰將棋の検討	用具 用具 作品 余詰	29 岡田秋葎作裸玉あり 他誌の余詰 ～237号(2回)
1942. 10	237	蘇月生 東京太郎 里見義舜 村山龍雪 片山正敏 佐賀聖一 片山正敏	關根十三世名人の近況 盤側閑談(七) 關ヶ原合戦と將棋 鏝ビタ横槍 禽象戯雜考 第八回 圖研會々員創作懸賞詰將棋 前田三桂先生訪問記	棋士 作品 随想 余詰 変則 作品 論客	裸玉、飛角図式、詰將棋精選 他誌の余詰 岡田秋葎作3x3石垣図式あり
1942. 11	238	前田三桂 里見義舜 岩木錦太郎 蘇月生 麻植長三郎 有馬康晴 小川留男	新編 失禮御免へタの横槍 戦國合戦記 山崎合戦と將棋 詰將棋ひと昔 關根名人と棋界 詰將棋紹介 陣中作品 懸賞古圖外詰むか詰まぬか	詰抜け 随想 随想 棋士 作品 作品 古図式	「へタの横槍」の臨時 中で詰將棋作家協會設立の提唱 他誌作品 杉本兼秋作4局 「手段草」14(240号には福泉藤吉作と)、33番、「玉図」84番、逃れ図1局
1942. 12	239	小川留男 龜井昭造	懸賞古圖名局選 古今詰將棋集	古図式 古図式	「無双」98番、「舞玉」11番、「手段草」9番、不明(三代伊藤宗看作とある)1局 「力草」20番、「智実」28番、「手鑑」20番、大道棋1局
【S18】					
1943. 1	240	一記者 棋塵庵 林家小豊豊丸 前田三桂 宮本弓彦 杉本兼秋 川野邊龍馬 龜井昭造 村山龍雪	關根名人と棋界 潜望鏡 初春將棋漫才 將棋筌 凡棋亭漫語 名局に觀る 各誌詰物集 古今詰將棋集 近來珍奇な話	棋士 随想 文芸 古図式 随想 古図式 作品 作品 類似作	～253最終号(5回) 「図巧」8番、「無双」60番 他誌作品 ～241号(2回)21～40番、243号に1～10番があり11～20番なし 「妙案」6番、ほか新作7局
1943. 2	241	村山龍雪 龜南片銀樹	古棋書探求 健筆駄話	棋書 随想	～249号(7回)

		龜井昭造 棋塵庵 編集部	古今詰將棋隊 詰將棋協會の結成を促す 懸賞詰將棋 第五部	作品 組織 作品	30	「勇略」63番、「大矢数」26番 ほかに佐賀聖一、小林豊、岩木錦太郎の関連記事 常設コーナー ～253最終号
1943. 3	242	關根金次郎 有馬康晴 詰棋狂 蒐集生 近藤二桂	名人棋談 疑問の詰棋書 八つ當り 古圖式解説に就て 大道詰將棋の綾	棋士 図式集 随想 古図式 大道棋		「將棋新選圖式」「將棋神戰」「象戲手段草」～243号(2回) 「妙案」～244号(2回)14番まで ～252号(3回)
1943. 4	243	佐藤千萬喜 小林豊	座頭に告ぐ 詰將棋鑑賞室	論評 作品	30	最長手順説への批判 ～248号(6回)
1943. 5	244	棋塵庵 一記者 有馬 有馬康晴 編集部	瑕の容積 將棋を造る關根名人 岡田秋菴君を悼む 伊能邊看齋著 將棋神戰 懸賞詰將棋 第三部	詰棋論 棋士 作家 古図式 作品	30 30	1～10番 北村研一初登場
1943. 6	245	棋塵庵ほか 杉本兼秋 關根金次郎 近藤二桂 杉本兼秋	詰將棋問答 名局に觀る 藝談 疎選の横槍 福泉籐吉撰 將棋新選圖式	詰棋論 古図式 棋士 余詰 古図式		～247号(3回) 「図巧」2, 12, 13, 16, 18, 19, 40, 76, 85, 92番 他誌の余詰 ～248号(4回)40番まで
1943. 7	246	南斗生 宮本弓彦 見坂棋尊人 麻植長三郎 三途川 榎本桂一 有馬康晴	南斗星漫筆 宗歩と太郎松 逸話傳記集 小駒作品募集 詰將棋エンマ帳 大道詰棋轟沈記 近代型詰將棋	随想 棋士 棋士 作品 余詰 大道棋 詰棋論	30	他誌より転載 ～248号(3回) 応募作252号 他誌の余詰 ～247号(2回) ～247号(2回)
1943. 8	247	東京太郎 宮本弓彦 土屋春雄 有馬康晴	盤側閑談(十七) 續詰將棋の出来るまで 詰將棋の大衆性 再び近代型詰將棋に就て	作品 作図 随想 詰棋論		小駒図式(この名称の嚆矢) 収録作品集一覽、詰図26局 ～248号(2回)
1943. 9	248	儘懸隔生 宮本弓彦 編集部	將棋隨筆 相掛の歴史(棋書校勘記) 酒井桂史氏 訃報	随想 棋書 作家	30	～250号(3回)

1943. 10	249	近藤二桂 東京太郎 桂忠治 麻植長三郎	大道詰将棋の沿革 盤側閑談（十九） 詰将棋の價值 詰将棋作品募集	大道棋 作品 作品 作品		続小駒図式 詰図24局、小駒図式の特質  裸玉、無仕掛 応募作発表なし
1943. 11	250	關根金次郎 指手詰太郎	将棋日誌 詰将棋棚卸報告集	随想 余詰		他誌の余詰
1943. 12	251	棋龍齋	隨筆 敢闘	隨想		
<b>【S19】</b>						
1944. 1	252	東京太郎 宮本弓彦 燕京棋人 編集部	盤側閑談（二二） 隨筆 将棋の譜 詰将棋お粗末録 日本詰将棋作家協會設立要項	作品 随想 余詰 組織	30	イの字型図式 初形8局、詰上り2局  他誌の余詰
1944. 2	253	阿部吉藏 高原太郎 松井雪山 金香棋人 内藤智義 丸山明歩	月報廢刊記念號發行に際して御挨拶申し上げます 護國論 餘瀝補遺 前號詰将棋お粗末録に驚く 駒一揃 思ひ出を綴る	挨拶 随想 古図式 余詰 作品 随想	30	他誌より転載  誤指摘の報告 自作18局